



くにちゃんブログ (ジャンル: エンカウンター)

「僕にとって」 「空間・場・舞台・磁場」 に関連する文章 (抜粋)

2006年9月26日から2010年10月13日まで

2010年11月 吉橋 編

## 「僕にとって」という言葉に関連する文章 (抜粋)

11月・非構成的エンカウンターグループ8 DAYS@穂高養生園 2010/10/13 15:58

僕にとっては、時間をたっぷりとして、  
ただ人と座るこのグループだけで十分魂が満たされます。

エンカウンター・レボリューション～「出遭いの循環」プロジェクト始動のお知らせ 2010/07/12 21:30

僕にとっての一番の収穫は、築港地区に住み、あるいは働いている  
人たちとの出会いでした。

確認できたことは、物理的に近くにいる人々が、  
実は最も深いご縁で結ばれている人々であることです。

非構成的エンカウンターグループ in 大阪のご案内 2010/07/06 15:10

先日のファシリテータークラスで、  
ある方が、「みんなのからだの前面から触覚のような手が  
伸びて影響を与え合っている」といった意味の感想を述べておられました。

僕はそれは事実であると思います。

たとえばからだを用いるダンサーの方も、音を用いるミュージシャンの方も一度、このようなグループの  
磁場の中で、「動かないこと」や「沈黙」を用いて座ってみることをお勧めしたいと思います。

おそらく「動くこと」や「音を出すこと」という現象が、  
さらに明らかになるのではないかと思います。

僕にとっては「何もしないこと」は非常に面白いことです。

ワンデイ・エンカウンターグループ in 東京のご案内。 2010/04/15 15:11

若い頃から持続可能なコミュニティに関心がありましたが（教えない授業や瞑想コミュニティの試み等）、  
今、「持続」とは、人々の間に流れるこの「気持ち」のことなのだ、と思います。

この「気持ち」は僕固有のものではなく、たとえば一昨日のフェンスワークスに来てくださった人々の「間」を「流れて」いるものなので、我々がある条件を整えたときに感じられ、アクセスできるようになる「空間の性質」と表現していいかと思います。

その性質は、今雨音が聞こえている暖かい春雨のように、まるで外側の気象条件みたいに我々のグループを包みます。

僕にとっては、このような空間の性質に触れることを「慈しまれている感じ」と表現するのがピッタリです。

若いダンサーが懸命にその身体の隅々まで意識を込めて、ステージの上で踊り輝く姿を見ると、我知らず流れる涙はこの「慈しみ」の質感に触れています。

下記の線は「中略」の意味です

.....

さらに僕には、「非構成的エンカウンターグループ」という持ち運び、携帯自由な装置があります（笑）。

このグループ（装置）は、新しい機能が自慢の「最新メソッド」ではなく、ただ普通の人同士が自分自身の耳で互いに話を「聞き合う」というごく「当たり前」の営みを行うだけのものです。

しかし、賢いリーダーの知恵ある言葉よりも、普通の人々の発する「雑音」が多いこのアナログ装置を使う意味は、僕にとってはただ事ではありません。

我々の家族やコミュニティを織り上げ、さらには地球全体を覆う人類の人間関係という内的気象は、無数の普通の人々が発する「雑音」によって織り合わされているからです。

.....

まず、カウンセリングやエンカウンターグループやプレイバックシアターやダンス、演劇、音楽ライブといった外的・内的な舞台空間が「丁寧に」、「普通に」、「自然に」準備されること。

すると、おのずと生じてくる「体験ベクトルの変質をともなう場（劇場）空間のエネルギー」の働きが参加者を乗せて、個々の意識のユニークな変容（人生の本質）という螺旋回廊を運んでいく営みが観察されます。

僕にとってはこれが、一般に人間の成長や進化という言葉で示されている我々の大きな旅の重要な一部なのです。

(改訂版) 第3期ファシリテータートレーニングのお知らせ 2010/03/03 01:40

僕にとってはプレイバックシアターやダンスワークショップの場作りも同じ視界の元に行っていますので、この機会に自分の考え方をシェアさせていただきたいと思います。

- .....
4. 僕にとって非構成的エンカウンターグループの意味と目的は、「出遭うこと」その一点にあります。それが最初で最後であると思います。

「穂高養生園で10日間の非構成的エンカウンターグループ」のお知らせ 2009/10/08 11:36

現在の僕にとって、エンカウンターグループという名付けによって作られる場は、一つの舞台に他なりません。

時間と空間を切り取り、結界してできた目には見えぬ舞台に、参加者それぞれの臨在を通じて顕れてくる物語があります。

そこに座る我々に、聴くという術（すべ）があるとき、結界された場は真剣さと神聖さを増し、その世界とはっきり区別された密度の高い磁場となっていきます。

その磁場の中では、普通の人間的な対話や交感が、共時的に現れる事物の絶妙な演出による「芸術」となっていきます。

共時性とは、言葉で明確にやりとりできる世界と、言の葉ではついに届かず、暗示や象徴によってのみ参入できる無形無色のリアリティとの交流のことです。

僕にとってエンカウンターグループは、我々が誰か他の「先生」や理論やスクールの手を借りずとも、すでに自分自身の光を放って存在していることを、繰り返し確認できるお祝いの舞台だといえると思います。

8月・女神山でのエンカウンターグループのお知らせです。 2009/07/17 12:30

僕にとってエンカウンターグループは、毎回、行ったことのない場所への旅みたいです。登山とも似ているかもしれませんね。

いくら長いキャリアを持っていたとしても、そこにある「山」に対して「先生」にはなれません。

11/4-13 : 穂高養生園での 10 日間のエンカウンター！ 2009/04/25 17:46

僕にとって非構成的縁カウンター、、、この誤字いけてますね！^^

非構成的エンカウンターグループは、いつの間にかライフワークの一つとなりましたが、共にその捉えがたい場の面白さを分かち合う西村佳哲氏の発案で、10 日間にわたるエンカウンターグループを行うことになりました。

12/11-14 : 非構成的エンカウンターグループ in 清里 2008/11/12 23:08

そんな年の瀬に、初めて会う人々と円座になってじっくり向かい合うことにどんな意味があるのでしょうか。

僕にとっては意味があります。

今、目の前に座っている人が、僕にとってのこの世界の代表者だからですね。

人間との関係を通じて我々は世界に触れるのかもしれませんが。

10/1-5 : 非構成エンカウンターグループ 2007/08/16 21:57

主催してくださる西村氏は気鋭のデザイナーで、素敵な作品をたくさん生み出しています。氏によるエンカウンターグループの説明は、アーティストとしての視点を表現した魅力的なものだと思います。

教育・啓発・治療といった従来のとらえ方ではなくエンカウンターグループを参加者の共同によるひとつの「作品」として見ることは、僕にとって大変魅力的なことです。

## 「場」「舞台」「空間」「磁場」という言葉に関連する文章 (抜粋)

### 非構成的エンカウンターグループ in 大阪のご案内 2010/07/06 15:10

たとえばからだを用いるダンサーの方も、音を用いるミュージシャンの方も一度、このようなグループの磁場の中で、「動かないこと」や「沈黙」を用いて座ってみることをお勧めしたいと思います。

おそらく 「動くこと」 や 「音を出すこと」 という現象が、さらに明らかになるのではないかと思います。

### ワンデイ・エンカウンターグループ in 東京のご案内。2010/04/15 15:11

「現在のこの瞬間」という舞台に上がって出会うのは一度に一人ずつ。一期一会というスポットライトを浴びてのデュエットです。

若い頃から持続可能なコミュニティに関心がありましたが（教えない授業や瞑想コミュニティの試み等）、今、「持続」とは、人々の間に流れるこの「気持ち」のことなのだ、と思います。

この「気持ち」は僕固有のものではなく、たとえば一昨日のフェンスワークスに来てくださった人々の「間」を「流れて」いるものなので、我々がある条件を整えたときに感じられ、アクセスできるようになる「空間の性質」と表現していいかと思います。

その性質は、今雨音が聞こえている暖かい春雨のように、まるで外側の気象条件みたいに我々のグループを包みます。

僕にとっては、このような空間の性質に触れることを「慈しまれている感じ」と表現するのがピッタリです。

.....  
参加者やファシリテーターが、いわば雑音の多いただの普通の人であることに安らげる空間にいと、今まで、気にいらぬ自分の姿を変えてまで欲しかった慈しみは、たとえば外の雨音を通じてやってきます。

この暖かい春雨の雨音に、力んで生きて来た我々の過剰なエネルギーが帰って行って、慈雨となって再び訪ねてくれるのだ、と表現してみたいと思います。

このベクトルの変化が「出会い」から「出遭い」、「doing」から「happening」、「コントロール」から「ギフト」への空間体験の変質の要点であると思います。

あえて僕の言葉で表現すれば、我々が自分を変えるのではなく、我々が存在している場空間（世界）が自ら変容して、我々をそのままの姿で迎え取る、といったニュアンスになります。

一昨日のフェンスワークスの人々の間を流れていた慈しみの感覚は、やかんのお湯が沸騰する前に小さな泡が現れるように、このような空間世界が到来するときに生じる前兆現象の一つであると思います。

まず、カウンセリングやエンカウンターグループやプレイバックシアターやダンス、演劇、音楽ライブといった外的・内的な舞台空間が「丁寧に」、「普通に」、「自然に」準備されること。

すると、おのずと生じてくる「体験ベクトルの変質をともなう場（劇場）空間のエネルギー」の働きが参加者を乗せて、個々の意識のユニークな変容（人生の本質）という螺旋回廊を運んでいく営みが観察されます。

#### （改訂版）第3期ファシリテータートレーニングのお知らせ 2010/03/03 01:40

5. 目の前の人（グループ参加者）と出遭うためには、明確に見て、聴くことができる「視力」が必要です。

ファシリテーターがそのような視力を持ってグループの「場」を設定するとき、そこに座って語る普通の人々がすでに発している威厳や尊厳を感知できる場・空間への移行が生じます。

パーソン・センタードとはそのような目の前の人々の尊厳をはっきりと確認する営みのことです。

7. これが僕の周りで起こっているエンカウンター・ムーブメントです。

僕のもう一つの仕事であるプレイバックシアターやミニカウンセリングと同じく、街角にゲリラ的に設定された「場=舞台」は、我々の思い込みで曇った感覚や見慣れた景色の中の「裂け目」として機能します。

8. 空間の裂け目（ゲート、ポータル）という空間認識は、ミニカウンセリングのクラスで多くの作品に触れるうちに生じてきました。

二人の人間がともに座り、聞き手が語り手の存在に向かって耳を傾ける時、二人の空間（磁場）は舞台構造を形作ります。

9. この裂け目=ゲート=舞台空間に入った人は、この社会が見失って久しい人間の尊厳と、人々がこの瞬間にそのまま在ることの威厳を垣間見ることができます。

10. この働きが顕れるために、エンカウンターグループやプレイバックシアター、あるいは能や舞踏のような実存的なダンス芸術には様式（時空間の設定の仕方）が必要です。

この様式によって他の場所でも同じ質の作用を再現することができます。

僕はこの様式をリチュアル（儀式的営み）と呼び、そこから生まれる我々人間への「作用」を舞台芸術と呼んでいます。

11. 我々が自ら放つ磁場を意識的に構造化して「建築」した舞台空間を任意の場所に置くことで、今住んでいるこの町や近隣のコミュニティの精神的な雰囲気を変容していくことを、ソーシャル・ポテンシャル・ムーブメント（社会の創造力を活性化する運動）と呼びたいと思います。

#### 六甲山 de 非構成的エンカウンターグループのお知らせ 2009/11/30 15:45

人間に起こる変化は、場所の質の変化と密接な関係があります。

「人間」という言葉が人の間、すなわち空間を示していることも暗示的です。

僕は、我々を変容していくための人の間、人の場を準備していきたいと思います。

#### 11月・六甲山エンカウンターグループのご案内 2009/10/16 03:12

外に見つめて、恋焦がれていた「よき人」は、気が付けば、内側の空間から我々を見つめてくれていたのです。

.....  
舞台は、人類の全歴史を通じて効果的に機能し続けてきた「見つめる」働きが起こるための優れた装置です。

エンカウンターグループは、人が結界となってその働きが開始される「舞台」の一つであると思います。

#### 「穂高養生園で10日間の非構成的エンカウンターグループ」のお知らせ 2009/10/08 11:36

現在の僕にとって、エンカウンターグループという名付けによって作られる場は、一つの舞台に他なりません。

時間と空間を切り取り、結界してできた目には見えぬ舞台に、参加者それぞれの臨在を通じて顕れてくる物語があります。

そこに座る我々に、聴くという術（すべ）があるとき、結界された場は真剣さと神聖さを増し、その世界とはっきり区別された密度の高い磁場となっていきます。